

図画工作

図画工作科においては、表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人が、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ることが大切です。

◆ 「内容のまとめり」の考え方

図画工作科における「内容のまとめり」は、学習指導要領の「第2 各学年の目標及び内容」「2 内容」に次のように示されています。

(例)〔第3学年及び第4学年〕

造形遊び・・・「A表現」(1)ア、(2)ア、(共通事項)(1)ア、イ
 絵や立体、工作・・・「A表現」(1)イ、(2)イ、(共通事項)(1)ア、イ
 鑑賞・・・「B鑑賞」(1)ア、(共通事項)(1)ア、イ

◆ 内容のまとめりごとの評価規準の作成

①学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを確認します。

※「評価の観点及びその趣旨」は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「改善等通知」(別紙4 16ページ)を参照してください。

②図画工作科における「内容のまとめり」と評価の観点の趣旨との関係を確認します。

※〔知識及び技能〕は「知識・技能」、〔思考力、判断力、表現力等〕は「思考・判断・表現」と対応しています。

③観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

※「観点ごとのポイント」は、巻末の「学習評価等に関する参考資料のリンク集」に掲載している「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料「小学校図画工作」(31ページ)を参照してください。

【第3学年及び第4学年の「絵や立体、工作」の内容のまとめりごとの評価規準(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 技 ・材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。	・つくりだす喜びを味わい進んで表現する学習活動に取り組もうとしている。 ・当該学年の「観 points の趣旨」を踏まえて作成します。

・文末は学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とします。
 ・「知識」は、共通事項(1)ア、「技能」はA表現(2)イから作成しています。

・「A表現」(1)イ、〔共通事項〕(1)イから作成します。
 ・文末は学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とします。

◆ 題材の評価規準の作成

図画工作科における評価に当たっては、「内容のまとめりごとの評価規準」を基に「題材の評価規準」を設定し、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価することが大切です。

例えば、「切ってつないで木の造形」の題材と関連する「内容のまとめり」は、「絵や立体、工作」と「鑑賞」です。それぞれの「内容のまとめりごとの評価規準」から、次のように「題材の評価規準」を作成することが考えられます。

【「切ってつないで木の造形」の題材と関連する「内容のまとめりごとの評価規準」(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 ・材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 ※波線部は、「絵や立体、工作」「鑑賞」双方に関する評価規準	・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい進んで表現する学習活動に取り組もうとしている。 ・つくりだす喜びを味わい進んで鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。 ※下線部は、「鑑賞」に関する評価規準

【「切ってつないで木の造形」の題材の評価規準(例)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かっている。 技 木やのこぎりを適切に扱うとともに、前年度までに扱った木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	思 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 鑑 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	態表 つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

◆ 学習評価に関する事例

1 題材名

「切ってつないで木の造形」

2 内容のまとめ

第3学年及び第4学年 「絵や立体、工作」、「鑑賞」（全6時間）

3 題材の目標

- (1) 「知識及び技能」に関する題材の目標
 - ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かる。
 - ・木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標
 - ・木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
 - ・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標
 - ・進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

4 単元の評価規準

※前ページ【「切ってつないで木の造形」の題材の評価規準（例）】を参照

5 指導と評価の計画（6時間） ※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

時間	ねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法
1～2	○のこぎりの扱い方を知り、木をいろいろな長さや形に切る。 ○のこぎりを適切に扱う。	○			観察
3 4	○切った木（木片）を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。		○		観察 対話 作品
5	○さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。	○			観察 対話 作品
6	○自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。		○	○	観察 対話 作品 作品カード

【POINT】
「知識・技能」の「技能」の評価に当たっては、「のこぎりを正しく持ち、安全に扱って木を切っている」「木をいろいろな長さや形に切ったり、表したいことに合わせて木片を選んだりしている」など、材料や用具を扱う児童の具体的な様子を捉えるようにします。

【POINT】
「思考・判断・表現（発想や構想）」の評価に当たっては、児童の動きや視線、会話などから、児童が「何を感じているのか」「何を考えているのか」などを捉えることが大切です。

【POINT】
「知識・技能」の「知識」の評価に当たっては、木を切ったり、木片を組み合わせたりしている一つ一つの行為を通して、形や色などの感じなどに着目している様子を捉え、造形的な視点として分かっているかどうかを把握します。

【POINT】
「思考・判断・表現（鑑賞）」の評価に当たっては、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、主に観察や対話、作品カードから把握します。

【POINT】
「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、発想や構想をすること、技能を働かせること、鑑賞することなどに進んで取り組もうとしているかについて、活動全体を通して把握します。